

【Q】94歳女性。腰が曲がってきて、以前から頸椎も悪いと言われていますが、最近右手の指先がしびれて感覚がなくなってきました。薬を飲み、指の運動もしているのですが、指先で握る・つまむ・箸ではさむなどの動作がとても不自由です。書道の筆はなんとか持てるのですが、症状が進行するのではと、とても不安です。



9

腰が曲がり、指にしびれ



なかま 季雄
すえお

【A】手足のしびれの原因には、中枢神経（脊髄神経）と末梢神経の障害があります。脊髄神経は、背骨（頸椎、胸椎、腰椎）の中（脊柱管）を通っていて、手足の運動や感覚はすべて脊髄を通過しますので、そのどこかで圧迫されると手足にしびれが出ます。頸椎だと手と足に、腰椎だと足に症状が出ます。

疾患を疑わなくてはなりません。現在腰が曲がってきたとのこと、腰が曲がると相対的に頸椎が前弯（前にカーブが強くなる（図1））となります。脊柱管は年齢とともに狭くなり、頸椎の前弯化とともに神経の圧迫を生じやすく、手のしびれ、巧緻運動障害（物をつまめない、ボタンかけが不自由など）、歩行障害などを生じます。

この方の場合、手のしびれですので、まず頸椎末梢神経障害のしびれとしては手根管症候群と肘部管症候群が代表的です。

とちぎメディカルセンター下都賀総合病院（栃木市）副院長・整形外科部長。自治医大卒。59歳。

頸椎と手の神経検査を



手根管症候群は、手首で正中神経（手のひらの感覚を支配している）が圧迫され、しびれは親指から薬指の半分までがしびれます。しびれは明け方に強く、進行すると親指の母指球（母指の付け根で膨らんでいるところ）が萎縮してきます（図2）。こうなると親指の対立（母指と他の指を向

かい合わせにする動き）が障害され、物をつまみにくくなります。肘部管症候群では、肘の内側で尺骨神経が圧迫され、小指、薬指側がしびれてきます。さらに指の間の筋肉が萎縮する（図3）と、つまむことは可能ですが挟む力が弱くなり、箸などが使いにくくなります。

いずれにしても頸椎の磁気共鳴画像（MRI）検査、手の神経の検査が必要です。これらの疾患は外科的治療法も確立されていますので、整形外科受診を強くお勧めします。

（第2、4金曜日掲載）

ドクターへの質問を募集します。お寄せいただいた中から毎月2件、紙面で回答します。病気の症状や経過などをなるべく詳しく書いてください。名前（匿名可）、年齢、性別、連絡先（住所、電話番号）を明記し、〒320-0868、下野新聞社くらし文化部「健康よろず相談室」係へ。住所不要。FAX（028・625・1185）、メール（dotoko@shimotsuke.co.jp）でも受け付けます。